

事例42 ハッピーランチ～友遊ひろば積み木の運営～

分類：

居場所

アウトリーチ

相談

学習支援

見守り

住民主体

栄養改善



運営団体基本情報

● 運営団体名	特定非営利活動法人 積み木	● 代表者名	後藤 喜久子	● 所在地	横浜市栄区本郷台2-7-6
● スタッフ構成	地域住民ボランティア約170名	● 運営財源	事業収入（配食サービス・カフェ等）・寄付・サービスB補助金など		
● 連絡先	TEL:045-894-9963 Mail:rywhp046@ybb.ne.jp	● ホームページ（参考情報）	https://npo-tsumiki.jimdofree.com/		

新型コロナウイルス感染症拡大前の事業概要

● 対象者層	高齢者をはじめとした地域住民	● 活動頻度	配食：週4回 交流活動：週5日	● 活動場所	配食：地域ケアプラザ 交流活動：自主拠点/友遊ひろば積み木
● 活動の形態	配食・地域サロン「友遊ひろば積み木」の運営 ・困りごと支援「ちょこっとサポート」	● 平均利用者数	配食：1回約40名 交流活動：月約延べ300名	● 利用料金	配食・サロン会食：500円 交流カフェ利用料：200円他

【活動の特徴と新型コロナウイルス感染症対策】

具体的な活動	●新型コロナウイルス感染症拡大前	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事作りに不自由している高齢者・障害者等の方々に、週4回配食サービスを実施。（ケアプラザ調理室使用） ● 地域住民の交流を図る場として、自主拠点「友遊ひろば積み木」を週5日開室、以下の諸活動を実施。ランチ・カフェのあるミニデイサロン、テーマカフェ（オペラ鑑賞・歴史談義等）、地域の音楽好きの方によるミニコンサート、健康福祉講座、趣味のつどい、絵画や写真等のギャラリー展示、健康作り教室等。 	● 活動経費	通信運搬費・印刷費・車両費・消耗品費・光熱水費等	
	●新型コロナウイルス感染症拡大後の取組と工夫	<p>3～5月は、配食サービスと「友遊ひろば積み木」の運営を休止、その間、配食利用者やミニデイサロン参加者等には、見守りをかねて、つながりを維持する取組をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 会報「積み木通信」（月刊）とお便りの各戸配布会の現況をお知らせするとともに、健康維持のために必要な知識や情報、簡単な料理レシピなどを掲載した会報を定期的に届けた。3月は手渡しで近況をお聞きしながら配布したが、以後は感染防止のため、ポスティングにした。 ● 電話等による見守りの実施 必要な方には、時々電話等で体調の確認や日常的な会話をすることで、見守りを行った。 <p>6月後半からは、配食サービスは、利用者数を絞り、実施回数を週2回に限定して再開した。ミニデイサロンは、三密を避けるため1回の参加者数を半分にし、同じプログラムを1日2回実施。拠点での交流活動も、予約制にするなど三密を避けて実施している。</p>	● その他、特記事項	<p>「積み木」は、多くの地域住民の協働の力で、お互いさまの助け合いのある街づくりを目指している。現在担い手会員は約170名。</p> <p>コロナ禍の3月以降数ヶ月間、毎月、100名近い利用者や参加者へのお便り・会報の配布作業に、たくさんの担い手が分担して携わった。</p> <p>★市町村基本情報 神奈川県横浜市栄区 人口 120,260人 高齢化率31.0%（2020.3末）</p>	
● 取組の効果	<p>利用者からは、お弁当が休止のときでも、定期的に届くお便りが心の励みになったと言っていた。電話では、じっくり話を聞くことで安心された方もいた。つながりを保ち続け、安心感・信頼関係を維持できた。</p>			 <p>配布した会報「積み木通信」とお便り</p>	 <p>再開したミニデイサロン</p>